

第4回 岩手の暮らし部会における主な意見等

- ・ 幸福に関する具体的な施策（医療・介護、公園整備等）は市町村が主に担っているものも多く、県と市町村の役割分担の視点を踏まえ、方向性を明確にすることが必要
- ・ 東日本大震災津波時に本県で2つの支援拠点を設けて取り組んだことなどに対する県内外の評価が高い。こうした経験を生かし、広域的な防災体制の構築を明確に記載することが必要
- ・ 災害対応や環境保全、森づくりのみならず、河川等流域単位で考えることが必要
- ・ 「地産地消」は産業分野だけでなく、食の安全・安心にも関わるので、複数の分野に跨る視点も必要
- ・ 子どもの基礎学力を伸ばすためには、親自体が教育に関わることが必要。「教育」だけでなく、「家族・子育て」での取組が必要
- ・ 人材の不足が大きな課題。「産業を発展させる人材」を育成するためにも、教育機関と連携した取組が必要

第4回 岩手の仕事部会における主な意見等

- ① 進学校を含めた高校生へのキャリア教育など、人材育成・確保という部分での教育を打ち出すことが必要。商工分野の施策と教育委員会の施策との方向性を合わせることも重要。
- ② 県立病院のネットワークを生かした県民の健康に関する取組、例えば、患者への助言などの積極的取組を盛り込むことが必要。
- ③ 計画の各施策を県民の幸福度にリンクさせていくことが重要。特に、若者にかかわる部分として、家族・子育て、健康、その背景にある仕事・収入部分は重要。
- ④ 若者へのアンケートにおいて、希望する仕事、必要な収入、安全、子育てがしやすい環境などを項目として追加すべき。
- ⑤ 農林水産業での全県的な交流の機会が重要。6次産業化の課題は販路不足であり工夫が必要。
- ⑥ 人口減による需要減の影響、ブロックチェーンも考慮すべき。IT産業、テレワーク等に関する取組も追加すべき。

第4回 岩手の学び・文化・スポーツ部会における主な意見等

- ①『健康・余暇』のサブタイトル「それぞれの嗜好に応じて」を「自分らしく」という表現を用いてはどうか。（健康・余暇）
- ②『岩手で、世界で活躍する人材の育成』において、「いわての復興教育」が中項目との関連が分かるよう具体的な説明を加えるべき。（教育）
- ③『教育』のサブタイトルで「可能性を伸ばしていくことができる岩手」とあるが、「自分の夢を実現できる岩手」にしていくべき。（教育）
- ④『特別支援教育の推進』に当たっては、「地域で学び、働き、暮らせる」ようにしていくべき。（教育）

第4回 岩手の若者部会における主な意見等

- ① 小、中、高、大学生に対するアンケートを継続的に実施することが必要。（調査対象となる学校を広く選定することのほか、一度県外に出た人たちを含めた意向を確認することや、原因分析に資するような設問が重要。）
- ② 計画を推進する上では、行政サイドの抜本的なIT化と働き方改革が必要。また行政「経営」という視点は重要であり、引き続き計画の文言に盛り込んでいくことが必要。
- ③ 外国人（研修生を含む）にとって、魅力的な岩手とすることが重要。
- ④ 新しい総合計画として「尖った」内容もり込むべき。例えば、家族の分野でのLGBTや、どこでもWi-Fiにつながる環境などを盛り込むことも重要ではないか。